

平成22年度共同研究の概要(成果報告書抜粋)

研究種別: 研究集会

研究代表者: 西村 拓 (東京大学 大学院農学生命科学研究科 ・ 准教授)

研究協力者: 溝口 勝(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)、川本 健(埼玉大学工学部 准教授)、中村公人(京都大学大学院農学研究科 講師)、渡邊裕純(東京農工大学大学院共生科学技術研究院 准教授)、西田和弘(東京大学大学院農学生命科学研究科 助教)

研究題目(和文):

土壌物理学を応用した物質動態・エネルギー循環に留意した乾燥地問題解決に関する研究集会

研究概要(和文):

10月22日(金)午後に鳥取大学図書館多目的ルーム(1)において「乾燥地・半乾燥地の環境保全研究における新しい視点を探る」と題した研究集会を実施した。川本から乾燥地に典型的な土壌の撥水性の発現と土壌物理性の関連, 中村から乾燥地(ネバダ, USA)における深層のN集積, 渡邊から畑地からの農薬流出とその生態系へのリスク, 西田から塩類集積の Bioremediation について基礎的知見, 西村から乾燥地農業における CO₂ 発生問題の提起がなされた。また, 井上, 溝口から, モニタリングなど現場における技術的な課題について指摘が行われた。

従来の乾燥地研究における不足点として, 自然草地において保全・回復できたかどうかという結果論だけではなく, その過程における水・物質循環問題の解明, また, 収量の増減だけではなく C,N や根系の機能も含めた乾燥地農業における物質動態をより深く考慮した解析などが指摘された。